



今年は新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、多くの行事や予定が中止になるだけではなく、皆さまの生活やお仕事にも変化があった年ではなかったのではないのでしょうか。

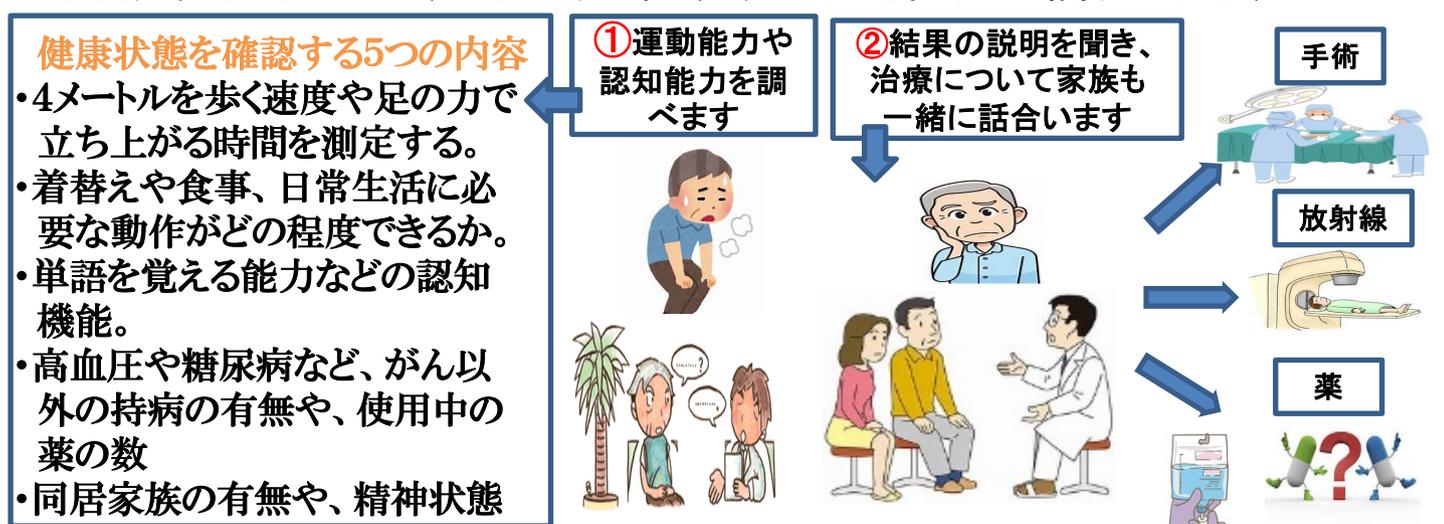
これまで平鹿総合病院で専門分野の資格を所有する看護師は、市民の皆様向けの勉強会に講師として参加し、健康や予防医療、病気に関する情報などのお話する機会をいただいております。

しかし、新型コロナの感染拡大予防のため、このような大切な機会がなくなってしまいました。そこで、私たちは市民の皆様向けの情報発信の方法を紙面や病院ホームへの掲載という形に変えて、情報を発信をしていきたいと考えました。第1号は「高齢のがん患者さんの医療」についての情報をお届けしたいと思います。

## -高齢のがん患者さんの「耐える力」を事前に評価して治療に生かしていく-

「高齢になってからのがん治療なんて心配」、「80歳になっても抗がん剤の治療している人がいるから大丈夫でしょう」、「高齢になればがんの進行も遅いから大丈夫」など色々なうわさ話や疑問がでてきそうな話題です。

この取り組みは、高齢者の健康状態や認知機能などを事前に詳しく調べ、一人ひとりの「耐える力」を把握して治療をしていきたいと思いますというものです。その背景には、高齢者は同じ年齢でも健康状態の個人差が大きく、抗がん剤の効き方や副作用などの体への影響や負担の違いが起こりやすいということがあります。また、体の状態だけではなく、家族の協力があるのか、ないのかでは、勧められる治療の内容や治療中の経過が変わってきますので、家族の協力はとても大切なこととなります。どのような取り組みなのかを以下にご紹介いたします。



高齢の方のがん治療を考えるときは、まず、治療をしながらでも、どのような生活を送りたいのかを考えてみましょう。そして可能な治療方法を医師や家族と考え、話し合うことが大切です。家族の協力が必要なこともありますので、焦らず話し合いをしていきましょう。

当院ではご紹介した詳細な取り組みは行なっておりませんが、高齢者のがん患者さんの治療を考えるときに、医師や看護師等からご本人やご家族に確認をさせて頂いている内容があります。患者さんご自身もご家族も納得した治療が、安全に安心して受けて頂くためです。これから治療を受ける方、現在、治療中の患者さんやそのご家族で、がんの治療についてご不明な点やご相談がございましたら、担当医師または看護師、がん相談室にお問い合わせください。